

麻しん（はしか）患者の発生について
(4月23日発表・第2報)

令和8年4月23日（木）、県内において今年25例目の麻しん患者の発生を確認しました。本発表は、麻しん患者が周囲に感染させる可能性のある期間内に不特定多数の人と接触した可能性が否定できないため、万全を期す観点から、4月23日（木）に広く情報提供いたしました。調査の結果判明した情報について、下記のとおり第2報として公表いたします。

利用した施設等は下記のとおりです。特にワクチン未接種の人については、下記の利用時間帯から21日以内に、発熱、発疹等、麻しんを疑う症状が現れた場合には、速やかな医療機関の受診をお願いします。

医療機関を受診する際は、医療機関への事前連絡（麻しん患者と同一空間にいた時間があること等）及びマスクの着用を徹底いただくとともに、周囲の人へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされています。現時点において麻しん患者が利用した施設等を利用しては心配はありません。

記

【施設の利用状況】

※アンダーラインは4月24日加筆部分

利用日	利用時間帯	利用施設
4月18日（土）	6時00分頃～6時10分頃 11時50分頃～12時10分頃 <u>17時10分頃～17時20分頃</u>	
4月20日（月）	6時00分頃～6時10分頃 11時50分頃～12時10分頃 <u>17時10分頃～17時20分頃</u>	
4月21日（火）	6時00分頃～6時10分頃 11時50分頃～12時10分頃 <u>17時10分頃～17時20分頃</u>	

※1 上記施設等への直接のお問い合わせはくれぐれもお控え願います。

※2 保健所にて疫学調査を実施し、特定された接触者については個別の対応を実施しています。

【患者の概要】

20歳代 男性

発症年月日：令和8年4月19日（日） 発熱

主な症状：発熱、発疹

麻しん予防接種歴：不明

【県民の皆様へ】

- 麻しんは、感染力が極めて強い感染症で、免疫のない人が感染すると、年齢を問わずほとんどが発病します。
- 感染すると10日から12日の潜伏期間（症状のない期間）を経て、38℃程度の発熱、風邪のような症状（咳や鼻水など）が現れ、2～3日間続きます。
その後、39℃以上の高熱となり、体中に赤い発疹が出現します。
- 麻しん患者と接触した場合は、発病までの期間を考慮し、接触後最大21日間の健康観察が必要です。
- 症状や経過から「麻しん」が疑われる場合は、事前に医療機関に「麻しんかもしれない」ことを連絡し、必ずマスクを着用して速やかに受診してください。
- 麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる病気であり、空気感染、飛沫感染、接触感染でヒトからヒトに感染が伝播するため、換気の徹底が重要です。
- また、有効な予防方法はワクチン接種です。2回接種による免疫獲得率は97～99%以上と報告されており、発症リスクを最小限に抑えることが期待できます。
麻しんの定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない人は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。
- 心配なこと等がありましたら、最寄りの保健所にご連絡ください。

【報道機関の皆様へ】

- 本情報提供は、感染症の拡大防止のために行うものですので、報道機関各位におかれましては、患者等の個人に係る情報について、プライバシー保護等の観点から、提供資料の範囲内での報道に、格段の御配慮をお願いします。

<参考>

1 麻しんの発生状況について

（単位：人）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
埼玉県	0	1	0	0	8	13	23*
全国	10	6	6	28	45	265	299**

* 感染症発生動向調査による。令和8年の値は16週(4月13日～4月19日)の累積速報値です。

** 感染症発生動向調査による。令和8年の値は15週(4月6日～4月12日)の累積速報値です。

2 その他参考情報

- ・ 埼玉県ホームページ「麻疹及び風疹流行情報」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/masinn.html>

- ・ 厚生労働省ホームページ「麻疹」

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/

- ・ 国立健康危機管理研究機構ホームページ「麻疹」

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ma/measles/index.html>